

「産婦人科・新生児研究会 15 年間の歴史」の集録に際し

日本産婦人科・新生児血液学会

第 10 代理事長 安達 知子

(母子愛育会 総合母子保健センター愛育病院 院長)

本学会は 2020 年に第 30 回の学術集会を福岡で迎えますが、学会設立前に 15 年間の研究会の時代がありますので、これまで 45 年におよぶ歴史があるといえます。

この度、1976 年から 1990 年にわたる研究会(産婦人科・新生児研究会)の記録(プログラム、抄録)をまとめ、本学会ホームページに掲載いたしました。産婦人科ならびに小児科における血液学の研究の流れを今一度ご覧いただき、本学会設立の意義をご理解いただくための一助としてご利用くださいますようお願い申し上げます。

研究会は、妊産婦や新生児の血液疾患のみならず、生理的な血液性状、その変化と意義、病態による変動、凝固系と線溶系、活性化因子とインヒビター、液相と固相、免疫・感染、炎症・サイトカイン、補体、血漿あるいは胎盤タンパク、血小板、大出血と血栓・止血、診断、予防、治療、先天性・後天性トロンボフィリア、産科 DIC、新生児 DIC、生殖や女性医学やがんにもつながる女性生涯全般と小児へと広がる血液をキーワードとした研究の黎明期から今後の発展を予測させる重要な研究の道筋を築き上げてきた期間だったと思います。本学会を貫く大きな血液学の歴史の流れを実感していただければと期待しております。

研究会から学会への設立における逸話や苦労話は、本学会ホームページに掲載されております、東京医科大学名誉教授、相馬廣明先生の「旧産婦人科・新生児研究会を顧みて」、および浜松医科大学名誉教授で第 1 回の学術集会長、第 3 代理事長である寺尾俊彦先生の「日本産婦人科・新生児血液学会の設立とその後の発展 ー 20 年を振り返る ー」をご参照ください。

また、研究会時代のご尽力をはじめ、学会設立後の Vitamin K フォーラムの共催(2016 年第 26 回学術集会まで)など、本学会学術集会の開催に長年大きくご貢献いただいたエーザイ株式会社のご支援に改めて感謝いたします。

本集録に際して、長年にわたる資料を整理・保存し、ご提供いただきました北海道大学名誉教授、本学会名誉会員の鈴木重統先生に心から御礼申し上げます。

最後に、本学会の基礎となった研究会を支えられた諸先生に深謝申し上げます。